

# 当たる!

広報クイズ⑱

## 応募の方法は...

はがきに答えの記号(例①-A)、住所、氏名、年齢、広報しろねへのご意見、ご希望などを書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で五人に五百円の図書券を、三人に県立自然科学館の招待券をペアで差し上げます。

○あて先 〒950-112 白根市

根市大字白根1235 白根市役所 広報クイズ係  
 ○締め切り 十月二十日(土) 必着のこと  
 ○抽選 十月二十二日(月)に市役所に来られた人に抽選していただきます  
 ○発表 十一月一日号

## 今月の問題は...

- ①国道8号に潤いを与えようと、青年会議所が進めている植樹。何の木を植えたのでしょうか。
- A カラタチ  
 B ポプラ  
 C ケヤキ  
 (ヒント11ページ)
- ②桃、ナシ、ブドウに代表される白根の果樹。昭和六十三年の栽培面積は何ヘクタール?
- A 一八七ヘクタール  
 B 二七一ヘクタール  
 C 三三四ヘクタール  
 (ヒント14ページ)
- ③十月十三、十四日に試写会が行なわれる立体ビデオの題名は何でしょうか?
- A 白根の果樹  
 B 白根の秋  
 C 白根の大風合戦  
 (ヒント18ページ)

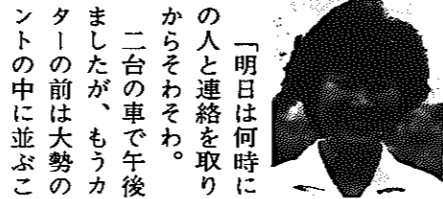
## 当選おめでとう!

(500円の図書券)

- ▶佐藤晴美さん(古川団地・41歳)
  - ▶五十嵐博之さん(中蒲原郡村松町・31歳)
  - ▶佐藤 歩さん(四ツ興野・13歳)
  - ▶富田恭子さん(古町・5歳)
  - ▶斎藤 香さん(七軒・17歳)
- (県立自然科学館招待券)
- ▶皆川真一さん(日の出町・11歳)
  - ▶鈴木克彦さん(白根・27歳)
  - ▶猪腰彦五さん(朝捲・27歳)



9月21日に市役所に来られた平館邦夫さん(和泉)に抽選していただきました。先月号の正解は①A②A③Aでした。応募総数は48通で、そのうち正解は46通でした。



### 楽しかった一日 小林幸子ショーを見て

小山ケイ子さん(道湯・工員・四十五歳)

「明日は何時に行く」と近所の人と連絡を取り合い、前の日からそわそわ。

二台の車で午後一時ころ行きましたが、もうカルチャーセンターの前は大勢の列。運良くテントの中に並ぶことができたの

さく見えました。アナウンスの声、すごい音響です。市長さんのおあいさつ。その中でこの音響効果はたしか県下で一番、二番かと言われたような気がします。小林幸子ショーの始まりです。豪華な衣装に身を包み、照明に映し出された姿。幸ちゃんのお歌がアリーナいっぱい響き渡り、何ともいえない光景でした。踊りあり、コントあり、サーピス精神の旺盛さ、まさに芸

人です。一流歌手になると、こうも違うものかと感心しました。素晴らしい音響効果、照明の鮮やかさ。あの始まる前の暑さも疲れもみんな吹っ飛んでしまいました。楽しい一日でした。今年はこの素晴らしいステージで市民芸能祭が実施されること。私たち民謡クラブも参加させてもらいたい、一生懸命練習に励んでいます。

小林キミイ

# 市民談話室

## 原稿募集

11月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 (☎373-2111④333) です。



### 立派なカルチャーセンター 市外の人にも褒められて

阿部フキさん(西笠巻新田1丁目店員・四十七歳)

あまり市政には関心のない私ですが、ちよつと一言。この度は市制三十周年、大変うれしいことです。その一環として建てられたカルチャーセンター。私はまだ入ったことがないので。大変立派なものが建てられたようです。私は新津市内に勤務する主婦ですが、先日、買い物に来られた六十五歳くらいのおばあちゃんが「白根って、ものすごいのができたンネ」と話し掛けてきました。私が「カルチャーセンターのことか」と答えますと「この間、大正琴の会で寄せてもらってき、ものすごく明るいし、広いし、設備もいいし、けなりたい」と言っておられました。私は市民の一人として、自分が褒められたような気がしてなりません。今度機会があったら、大いに利用したいと思います。



### 筆塚の建立を耳にして 天地万物に感謝の心

東樹友次さん(峰湯・無職・七十八歳)

養を著て旅すれば、養の恩をしみじみ胸に畳み、経を百編、千編、万編と読めば、「幸福三絶」で、ほごにはなれど捨てる

に惜しい。習字を書けば、ましてや、それを生活の糧とした者は、チビた筆にも恩をかみ締め。筆塚、筆塚、経塚にはタイムカプセルとは違った、感謝の一念が加えられる。

古来から造られてきた「塚」。白根にも大般若六百巻、五百万字を書き写した、その筆の遺がいを供養する謝恩塔ともいうべき「筆塚」が、秋の彼岸の中日に東福寺で除幕されるとか。「とんぼ釣り今日は何処まで行ったやら」の加賀の千代女が連想される今日このごろ。養、経、筆に、天地万物に感謝する心が、そこはかとなく思い出されて筆動き、白根には恐らく初めてであろう筆塚が建立されることを小耳に挟んで一文をものした。



### ニンニク玉を一緒に作って 大好きなおばあちゃん

原 年恵さん(七軒・会社員三十八歳)

近所の人から私の家を「老人ホームみたいだね」と言われたことがあります。それだけわが家のおばあちゃんの交際が広いのです。ぼけないうつめには、話相手も必要ですし、おばあちゃんもそれを楽しみにしています。嫁姑とうつめなかな会話を楽しむ中、いろいろ教えてもらいます。

達の中に、私たち夫婦にとっても大恩人といえるおばあちゃんがあります。年齢も八十二歳という高齢ながら、歩く姿はまだ若々しく、三十代後半の私が見てもほれぼれします。その秘訣は「ニンニク玉」なのだそう。うちの主人は風邪を引くとちよつと長引く体質でしたが、そのおばあちゃんに勧められ、ニンニク玉を飲むようになって半年後くらいから、あまり風邪を引かなくなりました。引いても会社を休むほどではなくなり、

家族みんな喜んでいます。あまりよく効くため、ニンニク玉の作り方を教えてもらおうと頼んだところ、三年くらい前からわが家で一緒に作るようになりました。(臭いので近所の人に迷惑を掛けてすみません)ニンニク玉を通してそのおばあちゃんとかに接するにつれ、

ますます大ファンになってしまいました。思いやりがあつて素直な性格なので気がねがいらなのです。だから玄関にそのおばあちゃんの手押し車があると、まるで自分の親に会えるような明るくホットな気分になります。私たち家族のためにもいつまでも元気でいてください。

## 市民文芸

俳句

蛭輪の昨夜の道の光りより 小林 すみ  
 室しかとおさへ唐黍かきけり 成沢 素明  
 母の手をすするりとぬけて裸の子 堀内ナナ子  
 向日葵の陽に反きたるもあり 豊木サグ子  
 母逝きし日も輝しくればげしかり 木村 トリ  
 「きなせや」も「おまんた」も皆夏 猪股 南魚  
 五十年無口の夫とあつて涼し 五十嵐寛吾  
 立葵咲きのぼりたる高きかな 公条 雪夫  
 紫蘇の汁染みし簾に梅を干す 山田 孝  
 大樺揺るがすばかり蟬の声 細貝 漢子  
 日焼せしことを悔いたるひとりごと 和泉 伸子  
 (以上大風会)

短歌

遠き孫未来の希望新聞に 小出熊四郎  
 出してあるなり電話掛け来る 小出熊四郎  
 止むる間もなく降りしきる雨の中 中村 京  
 寺詣て来し嬬バス待つ 小出よし  
 子供等と初めて泊りし民宿に 小出よし  
 夕日眺めつ夕餉のしむ 小出よし  
 命得しことを喜ぶてなし我が夫の 小出よし  
 呆けし瞳じつと見つむる 小出よし

川柳

塾通い親の期待も少し詰め 荒木 イマ  
 悲しみに涙が枯れてくる計報 織田 セツ  
 人面魚過疎にとつては福の神 後藤マサノ  
 ひと言の重さを知った父の恩 佐藤トミノ  
 補聴器を取り騒音を遮断する 佐藤 ヨキ  
 難聴の人には補聴器は大切な体の一部。聞きたくない愚痴や騒音には取りはずしができる便利さも。 高橋祐四雄  
 瀬戸際に金になる歩がいてくれず 竹石 甚五  
 疎ましい人のおしやべり上の空 田中 成子  
 肩書が邪魔になつて二度の職 田中 成子  
 人生を働き終る父 田村 恒夫  
 お隣のバカンス嫉妬の目で見つめ 時田 良子  
 ねらねらと女の火花飛んで来る 長井 徳市  
 一粒の米を論じて農夫老い 中村 尚治  
 嫁の鬱姑が小まめに動きすぎ 西条 ムラ  
 追い風が老いの背中に強すぎる 早川 英男  
 夏休みバイトで知った金の価値 山岡 フミ  
 不摂生あの世に一番近い道 本間 雪江  
 子に遠す地図に近道などいらぬ 吉川 彰  
 小企業横目で見てる青田刈り 米野 光雄